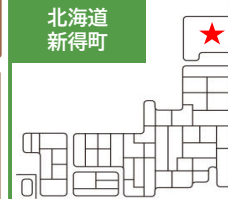


障害者や生活困窮者、ひきこもりの状態にある者など「働きづらさ」や「生きづらさ」を抱える方を受け入れ、農作業や集団生活を通じて「自立のための支援」を行うソーシャルファーム。

農林水産業経営体

北海道  
新得町



代表の父親が「自労自活」をモットーとする共働学舎を長野県に開設。

S  
53年

きっかけ

人を耕す

- 多種多様な作業があるため、メンバーが自分にあった作業を選択することにより、自分の役割を見いだせるように工夫。日々の作業にあたって、主体的に行動できる環境を構築。

地域を耕す

- 生産した農産物は、外食事業者へ販売するほか、敷地内の売店やカフェ、インターネットで販売するなど、6次産業化にも取り組む。

未来を耕す

- 農場の消臭等環境対策として「炭」を用いるなど、日本の伝統的な知恵を生かし、その土地にあった農業生産やモノづくりを推進。

取組

成果

## 基本情報

設立:S53年 / 農福連携取組開始:S49年

主な選定表彰:平成10年第1回ALLJAPANナチュラルチーズコンテスト最優秀賞、平成15年山のチーズオリンピック・フランス銀賞、平成16年山のチーズオリンピック・スイス金賞・最高賞

概要

主力商品  
(農作物)野菜  
(加工品)チーズ

特徴的な取組  
6次産業化 等

体制図



## 受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

## 平均工賃月額

72,910円(R2)  
→75,527円(R6)

## 障害者数

15人(R2)  
→18人(R6)

## 売上高

16,628万円(R2)  
→16,852万円(R6)

## 農地面積

101ha(R2)  
→114ha(R6)

- 自らの意志でその日の行動を選択することにより、主体性のある考えと思いやりの心が育まれる。
- 農場での経験を生かし、自身でチーズ工房を立ち上げる者、チーズ工房に勤める者や農業を営む者など、自立した生活を実現した者を多数輩出。

住所:住所:北海道上川郡新得町字新得9-1

TEL: 0156-69-5600

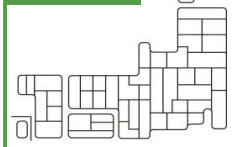
Mail:shintoku@kyodogakusha.org

URL: https://www.kyodogakusha.org

取組の概要障害特性に応じてチームを編成し、野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、通年で障害者の作業を安定的に創出。地域における先導性・モデル性の高い農福連携の取組を行っている。

福祉事業所

北海道  
月形町



## 基本情報

設立:H26年 / 農福連携取組開始:H23年

主な選定表彰:「わが村は美しくー北海道」第9回コンクール大賞

## 概要

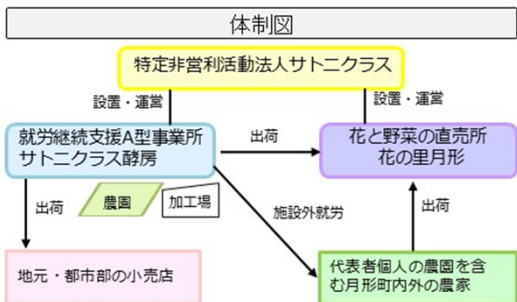
### 主力商品

(農作物)大根  
(加工品)漬物、味噌、米麴、乾燥野菜

### 特徴的な取組

6次産業化(地域の生産者と連携した直売所の運営)

## 体制図



住所:北海道樺戸郡月形町字当別原野420-9

TEL:0126-35-1235

Mail:npo@satoniclass.com

URL:https://www.satoniclass.com

## きっかけ

H26年

里山的環境が残る月形町で、地域の福会福祉法人や都市住民の力を合わせたコミュニティを創り、「里に暮らす」ことを継承したいとの思いから、NPO法人を設立。

## 取組

### 人を耕す

- 就労継続支援A型事業所「サトニクラス醸房」を運営。知的・精神・身体障害を持つ利用者が、約1haの農地及び加工場で、野菜生産や漬物製造等を通年で行うほか、月形町内外の農家に施設外就労し、水田の除草や野菜の収穫等に従事。
- 職業指導員の見立てにより、障害特性に応じて1組2~3人のチームを編成。また、漬物製造工程を細分化し、利用者を配置。

### 地域を耕す

- H27年に花と野菜の直売所「花の里月形」を開店するとともに、乾燥野菜等の商品開発や農家における労働力の需要調査を実施するなど、工賃向上のためにソフト面での研究を実施。
- 平成29年から、「月形農福連携センター」など月形町内の2団体と、農福サポーター派遣や農泊などでコラボ事業を展開。

### 未来を耕す

- 大学と連携した新商品の開発、営業ツールを活用した販路の拡大、運営体制や人員配置の見直しによる事業全体の効率化など、取組拡大の努力を継続。
- 直売所を核とした賑わいと寄り合いの創出により、地域の活性化と関係人口の拡大を図る取り組みを展開

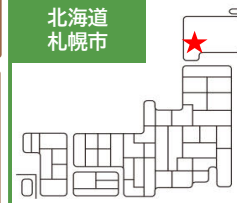
## 成果

平均工賃月額	売上高	連携する生産者数	直売所の来店客数
68,267円(R2) →87,757円(R6)	821万円(R2) →1,210万円(R6)	56戸(R2) →77戸(R6)	16,756人(R2) →69,074(R6)

- チーム作業により、収穫適期の野菜の見落としが防止されるなど、作業の正確性が向上し、職員による事後確認や、やり直し作業が減少。
- 漬物製造工程の細分化により、生産性が向上。年間製造量は、開始当初の2,000パックから20,000パック以上(令和6年度)へと10倍以上に増加。
- 六次産業化の取り組みにより開設した直売所に、年間6万人以上(令和6年度)の来店客が訪れるようになり、地域の活性化に寄与。

自社農場での農作業やJA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者が実施。

福祉事業所

北海道  
札幌市

きっかけ

R元年

児童発達支援及び放課後等デイサービスを卒業した利用者の就労先を確保するため、就労継続支援事業所を開設。

人を耕す

- 児童発達支援等の卒業生の就労先として、農業に参入し、自社農場における農作業のほか、JAや地元企業と連携した農作業受託、水路や農道の掃除、高齢者宅の草刈りや除雪作業にも積極的に参加し、地域との交流を深めている。
- JA関連施設やセコマグループの株式会社北栄ファームと契約し、就労の安定化を実現。

地域を耕す

- 農福連携の取組に興味を持った、地域外の飲食店や不動産業者、スキー場などからも農産物販売等の申し出があり、販路が拡大。
- 事業所で使用する食材をフードバンクから、事業所で収穫した規格外野菜等をフードバンクへと相互提供する関係を構築。

未来を耕す

- 就労継続支援A型事業所における施設外就労では、農作業や夏季限定野菜加工場のほか通年で就労できる食品仕分け作業も確保。就労継続支援B型事業所では除草などの作業を受託。

取組

成果

## 基本情報

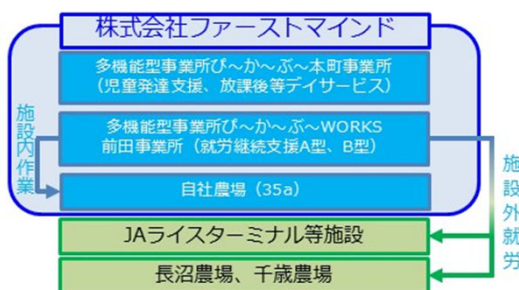
設立:R元年 / 農福連携取組開始:R元年

## 主力商品

(農作物)ミニトマト、キウイモ、ピーマン  
(加工品)乾燥ミニトマト、キウイモチップス

概要

体制図



## 受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

住所:北海道札幌市手稲区前田7条10丁目6

TEL:011-215-7493

Mail:pikabu.maeda@gmail.com

URL:https://www.pi-ka-bu.jp/

## 平均工賃月額

75,000円(R2)  
→110,000円(R6)

## 障害者数

21人(R2)  
→34人(R6)

## 売上高

491万円(R2)  
→2,356万円(R6)

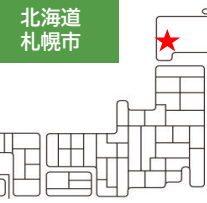
## 農地面積

0.3ha(R2)  
→0.3ha(R6)

- 就労継続支援A型事業所では、責任感や、やりがいを持てるように、リーダー制度や作業スキルにおけるステップアップ制度を設けて賃金に反映。
- 就労継続支援A型事業所利用者20名の平均賃金月額は10～15万円で、北海道平均を上回る給与を実現。これまで2名が障害者枠の一般就労に移行。
- 就労継続支援B型事業所の利用者18名の平均工賃月額も約3万円と北海道平均を上回っており、4～6万円の工賃を受け取る利用者も増加。

『戦力になる農福連携』をテーマに、24時間365日作業受託可能な体制で農作業チームを結成し、平均工賃9.5万円以上を実現。冬場には荒廃農地を利用して菌床椎茸栽培を行い、年間を通じた作業を創出。

中間支援組織



きっかけ

H31年

前身法人時代に人手不足の農家との出会いを契機に、有料の民間中間支援組織として農福連携のマッチング支援を行う。その経験を活かして自社チームを設立し、取組を開始。

人を耕す

人を耕す

- 24時間365日作業可能な体制を構築し、年間約30の契約農家により安定した作業受託を実現。就労Bの利用者と利用者からステップアップした職員で結成した「チームグリーン」は少数精鋭で運営され、月額平均工賃9.5万円以上を達成。
- 就労移行を積極的に推進し、他社移行や自社でのパート・正社員雇用を実現。

取組

地域を耕す

- 町所有の空き家の交流センターを借用し、障害者福祉のインフラ強化のための相談窓口としてNPO法人いんくるらぼを設立。街全体で農福連携への理解を促進。
- 冬の仕事創出のため、荒廃農地を借用してR4年より菌床椎茸栽培を開始し、R5にはノウフクJASを取得。冬季の受け入れ先がない養護学校生徒の実習受け入れに貢献。
- 農作業だけでなく、福祉除雪や住宅清掃などの地域の困りごとへも対応。

未来を耕す

未来を耕す

- 農福連携技術支援者に資格手当を支給し、自社だけでなく農福連携全体が盛り上がるようコーディネーター育成に尽力。
- R3より荒廃農地をユニバーサル農園として整備し、収穫体験や直売所、視察拠点として活用。地元社協や農家と連携し、高工賃実現や若年農業者育成などを推進。

基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:H31年

取得認証等:ノウフクJAS(R6年)

概要

主力商品

(農作物)菌床椎茸

特徴的な取組

林福連携、ユニバーサル農園、中間支援

体制

統括管理:合同会社カレイドスコープ(農福連携コーディネーター)  
 実施主体:特定非営利活動法人楽園プロジェクト(就労B、グループホーム、相談室)  
 連携自治体:北海道勇払郡安平町  
 農福連携実施地域:新篠津村、当別町、安平町、千歳市、長沼町、栗山町 他  
 主な連携先:【農業者】ダイナックス、またたびファーム、大塚ファーム 他、【企業】パターンプランニング株式会社(北海道TEA)、百姓屋(加工品製造) 他

住所:北海道札幌市白石区栄通11丁目1-33  
 TEL:011-556-8676  
 Mail:Kaleidoscope.jp@outlook.jp  
 URL:https://rakuenproject.com/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

成果

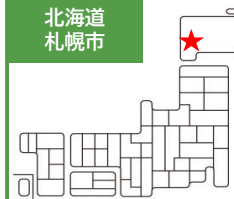
平均工賃月額	農作業チーム	菌床椎茸出荷額	農地面積
50,000円(R4) →100,000円(R6)	3人(R4) →8人(R6)	100万円(R5) →200万円(R6)	0a(R4) →2a(R6)

- 全国的にも珍しい完全民間の有料中間支援組織としての経験をもとに、農福連携を活用した町おこしや高工賃を実現。ノウフクJAS取得などが注目され、NHKや北海道ウェブ媒体『くらしごと』などで取材対応も実施。
- 農家目線と福祉目線の両立を重視し、高工賃の実現やコーディネートを推進。将来的には若年農業者に畑の管理や生産・出荷までを任せる計画。
- 特別支援学校からの卒業生が多く在籍しておりR6は5名、R7は2名を新たに採用。移行実績やテレビ出演などから就労希望者が増加。

自然栽培農法による果樹や伝統野菜等の生産・加工・販売までを一貫して行い、すべての事業で障害者等が活躍。レストランを併設したワイナリーを開設し、年間10,000本のワイン・シードルを製造。

福祉事業所

北海道  
札幌市



きっかけ

R2年

様々な困難を抱えた人々が自立に向けてのびのびと働くことができる職場づくりを目指し、障害者就労施設を運営する株式会社リベラを設立。

人を耕す

- 12.5haのほ場で多様な農業生産・加工・販売を通じて売上を拡大。
- 果樹・伝統野菜・希少なイタリア野菜等の生産・加工・販売まで自社で行っており、すべての事業において障害者等が従事。
- 適切な作業選択や研修などを通じた技術向上と働きやすい環境づくりに努めており、障害者の意欲と技術の向上により3年間で2名が一般就労に移行。

地域を耕す

- 荒廃農地化しそうな畑や果樹園の作業を受託し、自然栽培農法による適切な管理を行い、生産性を回復させ、地域農業の維持に貢献。
- 在来種である黒トウモロコシの生産・販売を通じて、北海道の伝統野菜の維持に貢献。
- ワイナリーに併設したレストランで、自社産野菜を使用した料理やワインを提供し、6次産業化のモデルとして取組の普及と、交流人口の増加に寄与。

未来を耕す

- 無肥料・無農薬の自然栽培農法で野菜等を栽培。
- 令和6年に「LIBERA WINE TERRACE」を開設し、ワインとシードルの醸造を開始。
- ワインの購入代金の50%を障害者の工賃と環境整備に使用することを明示することで、障害者雇用や自然環境の改善など、地域や社会に貢献する仕組みづくりへ消費者の行動変容を促進。社会課題を解決することで事業が拡大していく構造をつくり取りこむ。

取組

成果

基本情報

設立:R2年 / 農福連携取組開始:R2年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R3、4年)  
認定農業者(R8年)

概要

主力商品

(農作物)りんご、ハスカップ、黒とうもろこし、ハーブ  
(加工品)ワイン、シードル

特徴的な取組

自然栽培、環境再生型農業、スマート農業、農学校運営等

体制図

株式会社フェアフィールド  
(農地所有適格法人)

一部農地賃貸  
農作業委託  
農産物販売委託

株式会社リベラ  
(多機能型就労継続支援事業所リベラ)  
・農業生産・販売(賃借農地)  
・農作業受託・農産物加工販売  
※ 全ての業務を障がい者が担う

住所:札幌市中央区北2条西9丁目4 インファス2階

TEL:011-213-1525

Mail:yutorirolibera@gmail.com

URL:https://shurosihen-b-libera.com/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他 若年性認知症	○

平均工賃時給

400円/時(R2)  
→436円/時(R6)

障害者数

8人(R2)  
→21人(R6)

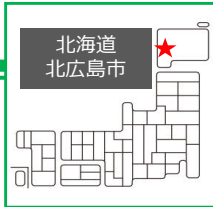
売上高

183万円(R2)  
→889万円(R6)

農地面積

12.5ha(R2)  
→12.5ha(R6)

- 障害者等の工賃向上に努め、北海道の平均工賃を大幅に上回る450円/時間を実現。
- 自然栽培農法を学ぶ参加者が地元仁木町や隣町の余市町などに宿泊・滞在することで地域経済と都市農村交流、関係人口の増加に貢献。
- 施設利用者のうち、R6の農業従事者数は15人となっており、R2から年々増加。
- 農福連携を通じた生産性の向上により、R6はワイン9,000本、シードル1,000本を生産。



大がかりな機械化を行わず、多品目の野菜を通年で栽培することで、継続的に障害者の作業を創出。天皇・皇后両陛下（当時）が訪問されるなど、北海道で農福連携に興味を持つ方々にとり象徴的な存在。

### 基本情報

- 所在地：北海道北広島市
- 団体名：合同会社竹内農園
- 選定表彰：第11回コープさっぽろ農業賞 ビジネスモデル賞優秀賞
- 主力商品：こまつな、中玉トマト、なす、にんじん、サニーレタス等の野菜15種類
- 取得認証等：エコファーマー



ハウスでの野菜栽培

### 取組の概要

- 社会福祉士の資格を持つ妻とともに夫婦で農場を運営し、近郊の就労継続支援B型事業所など3か所から、知的障害等を持つ利用者を中心に10名程を施設外就労として受け入れ、農地約4haで、野菜15種類を栽培。
- 自走式のは種機や定植機を用いず、手作業を中心とした作業を創出し、障害者は、定植や収穫などの畑作業を行うほか、収穫物の袋詰め作業の95%程度を担う。
- 自治体や農政事務所主催の視察を積極的に受け入れてきたほか、シンポジウムへ登壇及びメディアへの登場も多数。平成30年8月には天皇・皇后両陛下（当時）が訪問。



農作業の様子

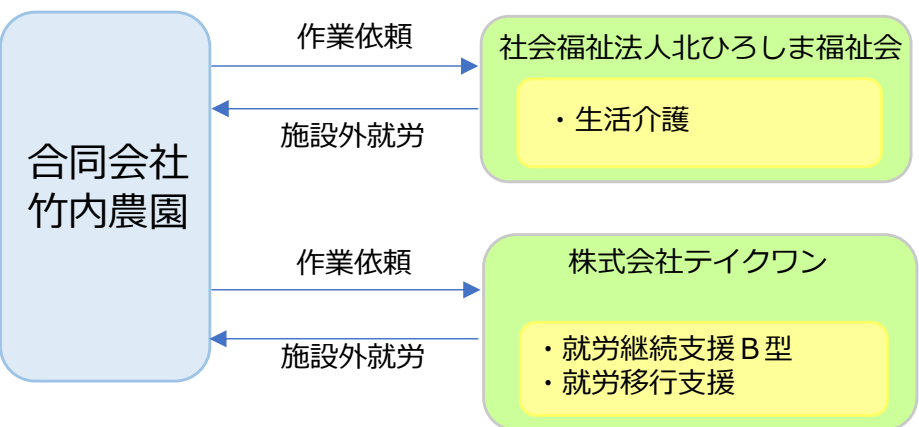


手押し播種機



出荷作業の様子

### 体制図



### 取組の成果

- 多品目の野菜の通年栽培により、年間200日程度の出荷作業を実現するとともに、多くの手作業の創出により、10名程の障害者を継続的に受入。
- 機械の固定費を安くし、水耕栽培等の高額な施設を導入しないことで利益幅を確保し、安定的な経営を実践。
- 平成27年3月にエコファーマーに認定。
- 自らの知名度が高まることで、地域の農業者から相談を受け、自ら事業所とのマッチング役となっている。

所在地 ▶ 北海道北広島市島松490番地

連絡先 ▶ TEL:080-1898-5258 E-mail: takenouen@gmail.com

ウェブサイト ▶ <http://takenouen.ohitashi.com/index.html>

# 【取組のプロセス】

平成19年

研修は、1年目に野菜の販売を学び、2年目に60種類の野菜の全般的な畑仕事をし、3年目に作物を担当。

平成25年

青年就農給付金経営開始型を利用。

平成27年

エコファーマーの認定を受け、農薬や化学肥料の使用を控えた栽培に取り組む。

令和2年

経営面積は約4haに拡大し、障害者就労を踏まえた15品目の野菜を栽培。

今後の展望

障害者が働く環境をより良くするために、作業のフローを見直し、新たな作物の導入も試行錯誤しながら、トライ&エラーで改善を進める。

## きっかけ

輸送機器メーカーでのインド駐在時に、人や資源が流出する北海道内の産業の疲弊を感じ、故郷の北海道で就農することを決意。適材適所という観点から、地元で暮らす障害者や高齢者を農業に結びつけた農場の設立を志す

### 合同会社竹内農園の設立、農福連携の取組開始

- 知的障害者を主にした社会福祉法人の施設で働いた後、道央農業振興公社の研修生として主に恵庭市の農業生産法人で3年間研修生として農業を学び、平成25年10月に合同会社竹内農園を設立。
- 平成26年の春に、北広島市の農家から約3haの農地を借り受け、研修終了後の同年4月に就農。就農当初から、同市内の就労継続支援B型事業所と農福連携の取組を開始。

### 「選択と集中」から「カイゼン」へ

- 平成27年（就農2年目）には、それまで参加していたお祭りやイベントでの農産物販売をやめ、その時間を畑の仕事に充てるとともに、作物についても、葉物を中心とした野菜栽培から、旬に合わせて、果菜類や根菜類も取り入れた栽培に変更。
- 平成28年（就農3年目）から平成30年（就農5年目）にかけて、「か・け・ふ（稼ぐ・削る・防ぐ）」を合言葉に、売り上げを増やして経費を削り、リスクに対応できる能力を磨くことに重点を置き、積極的に業務改善に取り組み始める。

### 障害者受入れの拡大（地産地消にも繋がる取組）

- 令和2年8月に、新たに北広島市内の障害者支援施設事業所と業務委託契約を締結。収穫した野菜は、事業所が運営するレストランのメニューや弁当などにも活用され、北広島産の食材の地産地消に貢献。

### PDCAサイクルにより継続的に業務改善を検討・実施していく

- 積極的な投資により経営面積を拡大することで生産量を増やし、障害者の工賃向上を目指すとともに、特定の時期に集中している作業の平準化及び新たな作業創出のため、にんじん出荷調製場の改善や、加工品への挑戦、越冬作物の試験、収穫とパック詰めめのタイミングの改善などを検討。



インドの混雑した道路



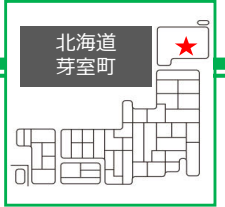
収穫したトマト 農作業の様子



6月から7月収穫の小松菜



4月は種5月収穫の小松菜



官民一体の就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」による農福連携モデル。十勝ブランドの活用と、出資企業によるばれいしょの買い取りで、安定した収益と高い賃金を実現。

### 基本情報

- 所在地：北海道芽室町
- 団体名：株式会社九神ファームめむろ
- 選定表彰：第3回ディスカバー農山漁村の宝 アクティブ賞（主催：農林水産省）
- 主力商品：ばれいしょ  
※出資企業である惣菜店に販売
- 取得認証等：－



1次加工処理の終わったばれいしょ

### 取組の概要

- 就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」を運営し、知的・精神障害を持つ約20名の利用者が、借用する農地約4ha及び加工場で、野菜生産及びばれいしょ、ごぼう、ながいも等の1次加工作業を通年で実施。
- 1次加工したばれいしょの全量を出資企業が買い取ることで、安定した収益を確保。
- JAめむろからは、農作業指導を受けるほか、収穫量が不足する場合は、ばれいしょを提供してもらうなど、協力体制を構築。



加工場外観

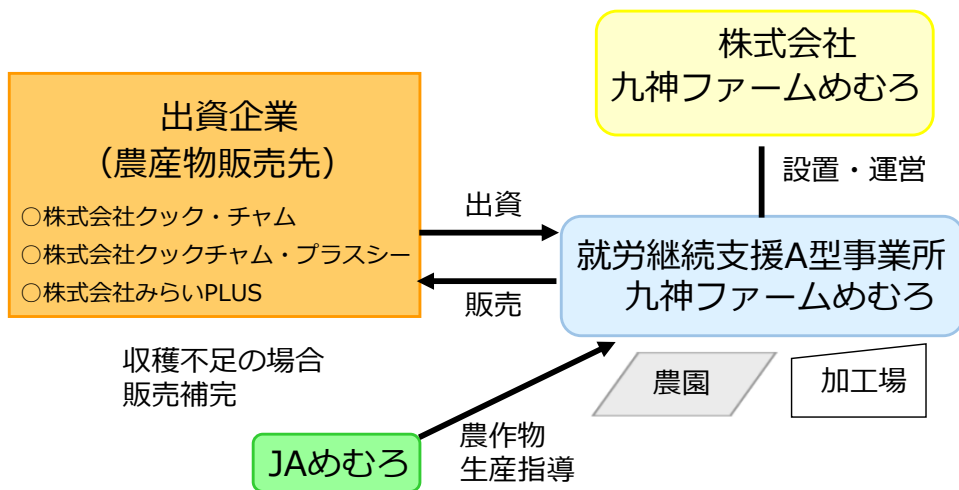


農作業の様子



加工場での作業

### 体制図



### 取組の成果

- 平均賃金月額は約11万円であり、高賃金を実現。
- 本プロジェクトにより、町内に多くの障害者の就労先が創出された。
- 地元の離農した農業者に、農業サポーターとして農作業の指導を行ってもらうことで、高齢者の生きがいとなる場所を創出。
- 利用者は、働くことや安定的な賃金を得ることを通じて成長し、更なるキャリアアップを実現。役場、JA、食品販売店などの一般就労に移行した者も多数。

所在地 ▶ 北海道河西郡芽室町中美生2線47番地1

連絡先 ▶ TEL:0155-65-2280 E-mail:－

ウェブサイト ▶ <http://kyujinfarm-memuro.co.jp>

# 【取組のプロセス】

平成24年

平成24年8月に、芽室町が「プロジェクトめむろ」の構想を確定

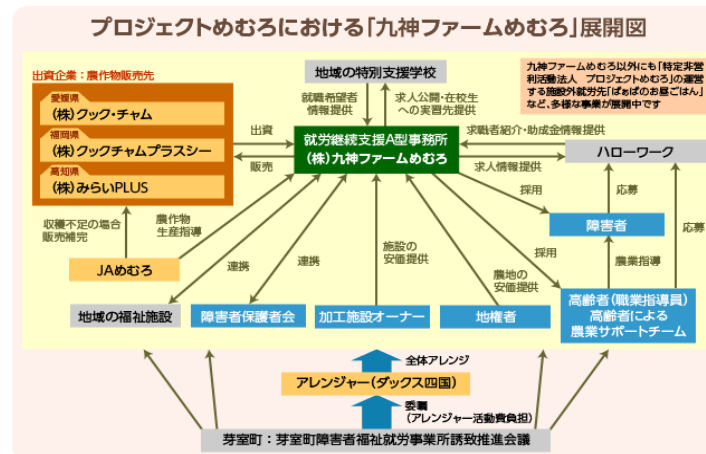
きっかけ

芽室町が、町内の低い障害者就労率を改善するため、障害者雇用に先駆的に取り組む企業の誘致を行う中、既に他企業へのコンサルの実績のあった四国の民間企業にアプローチし、十勝ブランドの農作物の生産・加工を通じた障害者就労のビジネスモデルの提案を受けた

平成25年

## 就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」の設置・運営開始

- 平成24年12月に、複数の道外企業の出資を得て、株式会社九神ファームめむろを設立。翌年2月には、芽室町初の就労継続支援A型事業所である「九神ファームめむろ」が事業認定され、同年4月から運営を開始。
- 障害者（当初9名）のみならず、農業サポートチームとして、地域の高齢者（職業指導員）も雇用。



平成27年

平成27年4月に、事業所の利用2名を職員として採用

## 新加工場稼働、就労キャリア教育事業の開始

- 平成27年2月に新たな加工場（嵐山工場）を整備・稼働し、従来から取り扱っていたばれいしょのみならず、ごぼうやながいも等も導入し、障害者の加工作業を拡大。
- 平成28年4月から、農業体験・加工体験を活用した管内特別支援学校の修学旅行や、道外大学の学生の農業体験の誘致において、NPO法人プロジェクトめむろ（芽室町から観光事業を受託）と連携。
- 平成28年に、農林水産省主催の「第3回ディスカバー農山漁村（むら）の宝」において、女性や高齢者、障害者の活躍がその活動の大きな原動力となっている優良事例として、アクトティブ賞を受賞。

都市農村共生・対流総合対策事業（集落連携推進対策、人材活用対策）に採択



収穫作業の様子

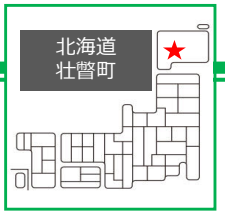
今後の展望

## 誰もが当たり前前に働いて生きていける仕組み創り

- 就労定着支援や障害者の生活の場の整備、障害者雇用の職域開拓・理解促進のための企業説明会や企業訪問の実施などを通して、誰もが当たり前前に働いて生きていける町を目指して、プロジェクトを継続。



加工作業の様子



有機栽培と平飼い養鶏によって生産物のブランド化に成功。北海道内の農作業に取り組む障害福祉サービス事業所でトップクラスの工賃実績を誇り、30年以上の歴史を持つ農福連携の取組。

- ### 基本情報
- 所在地：北海道壮瞥町
  - 団体名：合同会社たつかーむ 合同会社自然農業社
  - 選定表彰：第3回コープさっぽろ農業大賞特別賞（主催：コープさっぽろ農業賞実行委員会）
  - 主力商品：平飼い有精卵、無添加みそ、熟成黒にんにく、豆のドライパック、有機大豆、有機野菜（だいこん、ズッキーニ、たまねぎ等）
  - 取得認証等：認定農業者、有機JAS認証

- ### 取組の概要
- 知的・精神障害を有する約40名の利用者が、農地約11haにおいて野菜の有機栽培を行うほか、鶏舎11棟で約3,000羽の平飼い養鶏を通年で実施。
  - 事業所の利用者は、養鶏については、給餌、採卵・洗卵、鶏舎清掃等に従事。また、野菜栽培については、播種、肥料散布、除草、収穫物の計量・袋詰め等に従事。
  - 大豆を味噌やドライパックに加工するほか、親鶏のレトルトチキンカレーや熟成黒にんにくの製造、鶏卵を用いた菓子の製造販売などで、冬期の作業を創出。
  - 平成16年にNPO法人を設立し、通所出来ない障害者のためのグループホーム事業を開始。また、平成26年にカフェをオープンし、生産した鶏卵や野菜を食材として使用。



平飼い養鶏の様子

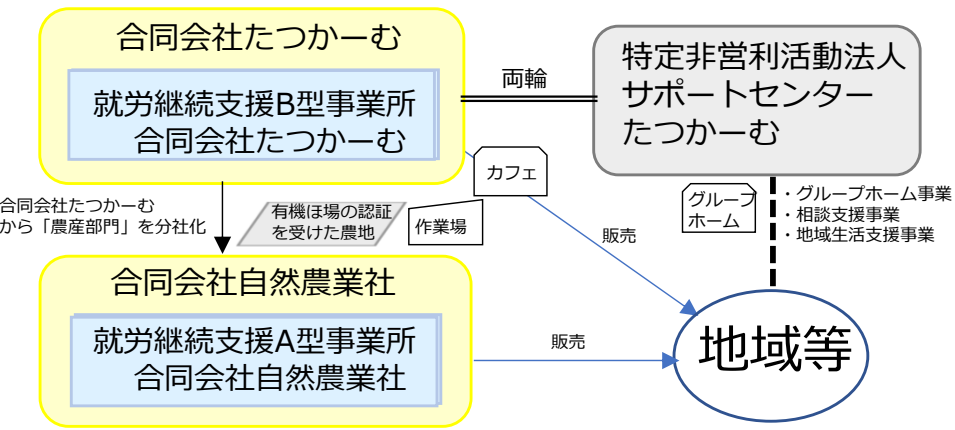


平飼い有精卵



農作業の様子

### 体制図



### 取組の成果

- 平成13年、農産物の有機JAS認証を取得。付加価値の高い農畜産物や加工品の販売により、平均月額賃金等は、たつかーむのB型が約5万円、自然農業社のA型が約9万円と、北海道内の事業所で高水準を実現。
- 一つの運営法人が、およそ30年間もの長い年月をかけて、障害者の生活に必要な多くの施設と、確かな農業技術による経済活動の基盤を築き上げてきたことで、障害者が、町内で自立して生活していける場を提供する役割を担っている。

所在地 ▶ 北海道有珠郡壮瞥町字立香92番地12  
 連絡先 ▶ TEL:0142-66-3345 E-mail: farm@tatukam.jp  
 ウェブサイト ▶ <https://tatukam.jp>

# 【取組のプロセス】

昭和61年

壮瞥町へ移住し、障害者の学習塾及び相談室を開設。並行して農地を探す

**きっかけ**

障害をもつ人や社会の中で不利な立場にある人たちが、他の人たちと対等に働きながら、地域の中で、自然や他者との関わりを通じて経済的・社会的自立を達成するための取組を志した

昭和62年

養鶏事業が軌道に乗る一方、有機野菜は当時、差別化が図りづらく収入に結びつかなかった

## 農場たつかーむの設立

- 離農農地（農地1ha、宅地・山林等1ha）を取得し、昭和62年に農場たつかーむを設立。知的障害者との共同生活を送りながら、有機農業及び自然養鶏業を開始。
- 平成3年に共働作業所を開設し、平成6年からは農産物宅配サービス事業を開始。



設立者夫妻

平成13年

平成13年 第3回コープさっぽろ 農業大賞特別賞受賞

## 有機JAS認証を取得、NPO法人の設立

- 平成3年に農産物の有機JAS認証を取得し、有機野菜での差別化を図る。積極的に有機農産物認定のほ場を拡大。
- 平成16年にNPO法人「サポートセンターたつかーむ」を設立し、従業員寮をグループホームの制度にのせ、グループホーム事業を開始。また、平成19年からは同法人で「地域活動支援センター」事業を開始し、平成24年に相談室フロイデを開設。



カフェ外観

平成26年

平成19年に就労継続支援A型事業所、平成21年に多機能型事業所の指定を受ける

## 農場内にカフェを併設、農産部門の分社

- 平成26年に農場直営のカフェを開店し、収穫した卵や野菜を使用。
- 平成27年に農産部門を合同会社自然農業社（同名の就労継続支援A型事業所を運営）として分社化。
- 出荷鶏肉を利用したレトルトカレーなど食品加工にも進出し、平成29年に「たまご屋さんのチキンカレー」（レトルトパウチ）が商品化。

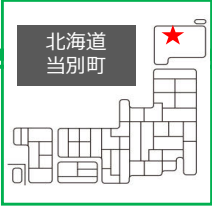


給餌風景

今後の展望

## これからも・・・

- 合同会社たつかーむにおける共生・自立の営み・挑戦が、どんな人も、共にあたりまえに暮らせる社会づくりのいしずえになることを信じて、これからも畑を、そして地域を、耕し続ける。



採卵鶏での有機JAS認証取得により、付加価値の高い農業生産を実現。高品質な卵と元精神科看護師による専門的なサポートにより、農福連携の取組において、多数の就労と健康を生み出す。

### 基本情報


- 所在地：北海道当別町
- 団体名：一般社団法人Agricola
- 選定表彰：－
- 主力商品：オーガニックエッグ、平飼い卵、亜麻仁卵
- 取得認証等：有機JAS





(写真上：有機ほ場での平飼いの様子)  
(写真左：主力商品「オーガニックエッグ」)

### 取組の概要


- スペシャルニーズを持つ（特別な配慮を必要とする）利用者15名が、有機ほ場の認証を受けた3.5haの農地を利用したビニールハウス鶏舎6棟、木造鶏舎1棟や畑で、養鶏（約6,000羽の鶏を平飼い）や野菜の栽培に通年で取り組む。
- 身体にスペシャルニーズを持つ利用者には、伝票作成などの事務作業に従事して、特長に応じた作業分担を実施。
- 近隣の農福連携の取組主体から野菜の調理くずを引き取り、鶏の飼料として活用することで、循環型農業の取組を実施。
- 元精神科の看護師である代表者夫妻が、専門知識や経験を生かし、利用者の体調管理や相談事へのきめ細やかな対応を行い、利用者同士の間関係にも配慮。



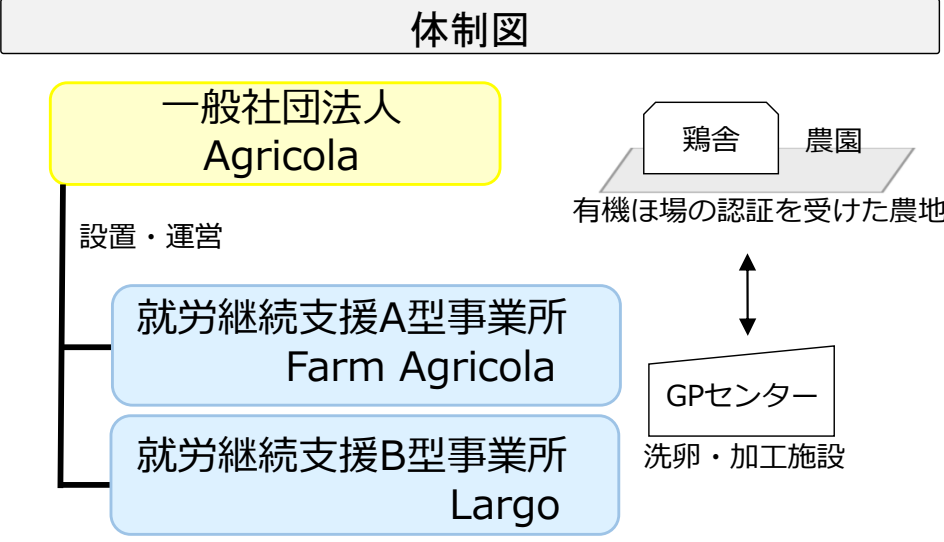
「養鶏」…商品種類別の専用ケースを集卵側と洗卵側の両方に用意し、移し替えることで、異なる商品の混入を防止。



「配合飼料」…臭みをなくするため魚粉の使用を最小限とし、北海道産の原料にこだわった自家配合飼料を鶏の餌に使用。



「有機野菜」…有機ほ場の認証を受けた農地で野菜を栽培。



### 取組の成果

- 令和元年7月、就労系障害福祉サービス事業所の設置・運営法人として全国で初めて、採卵鶏での有機JAS認証を取得。また、飼料の全量を国産で賄っており、福祉主体でありながら高難度の取組に成功。
- 生産される高品質な卵は有名ホテルにも販売され、売上げの増加に伴い、事業所の利用者数は、取組開始当初から倍以上に増加。
- 養鶏の作業や専門的なサポートにより、精神にスペシャルニーズを持つ利用者の抗精神病薬の服薬量が、多くの場合で1/2～1/3にまで減少。

所在地 ▶ 北海道石狩郡当別町字金沢1779-17  
 連絡先 ▶ TEL:0133-27-5551 E-mail:info@agricola.jp  
 ウェブサイト ▶ <https://www.agricola.jp/>

# 【取組のプロセス】

平成27年

イニシャルコストが抑えられ、通年作業が可能である養鶏を選択

平成28年

農山漁村振興交付金を活用し、鶏卵の加工施設（洗卵設備）を整備

平成31年

令和2年

農林水産省主催の農福連携育成研修で、障害福祉サービス事業所職員向けの講師を務める

令和4年

今後の展望

## きっかけ

精神科の看護師として勤務する中、病院で行う精神医療に限界を感じ、農業主体で収入を確保し、看護師として精神的なフォローを行うことで、精神にスペシャルニーズを持つ方の就労が可能となり、入院に至ることを少しでも防げるのではないかと考えた

### 一般社団法人Agricolaの設立、事業所の運営開始

- 平成28年8月に一般社団法人Agricolaを設立するとともに、平成29年4月に就労継続支援A型事業所「Farm Agricola」を設置し、当初から農福連携の取組を開始。

### 採卵鶏での有機JAS認証を取得

- 令和元年7月、就労系障害福祉サービス事業所の設置・運営法人として全国で初めて、採卵鶏での有機JAS認証を取得。

### 飼育する鶏の数が6,000羽に達する

- スペシャルニーズを持つ方の雇用及び工賃水準を確保するため、段階的に鶏の数を増やし、令和3年9月には4,200羽に到達。
- 入替となる鶏の一部は、剣淵町の業者に依頼し、燻製にして商品化。
- 令和3年から、1haのほ場で有機デントコーンを栽培し、有機飼料の自給を開始。
- 令和4年に木造で新鶏舎を建築し、飼養羽数が6,000羽となる。

### 就労継続支援B型事業所 Largo を設立

- 心身の変化や高齢化などにより、就労継続支援A型事業所での就労が困難な利用者に対して、地域での受け皿になれるよう、令和4年9月に就労継続支援B型事業所を設立。

### 国産の有機飼料による養鶏、鶏卵加工品の製造・販売

- 近隣市の農家から子実とうもろこしを購入したり、有機大豆を自家栽培するなどして、国産の有機飼料による養鶏を進めていきたい。
- 就労継続支援B型事業所を運営することで、より幅広くスペシャルニーズを持つ方々を支援しながら、マヨネーズなどの鶏卵加工品を製造・販売し、経営の拡大に繋がっていききたい。
- 利用者の現在及び今後のQOL向上を目的として、社会保険を完備したい。



ほ場作業風景



燻製商品



鶏舎の風景

